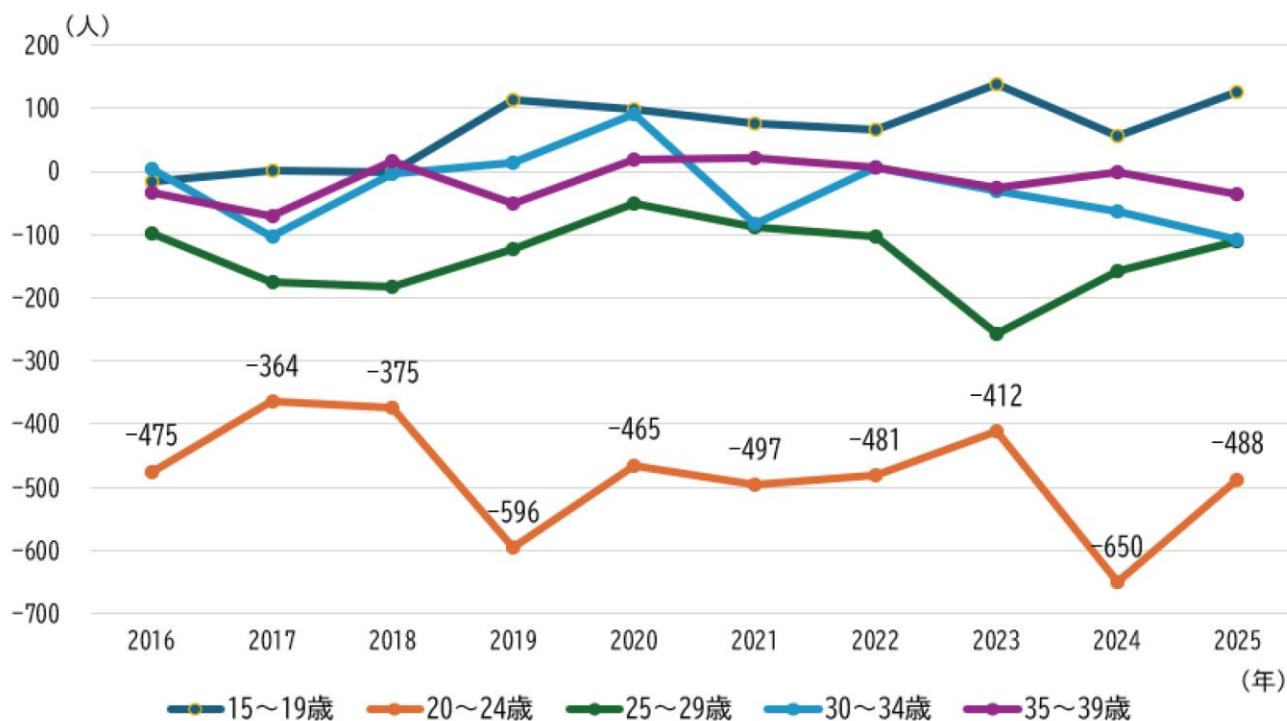


# # 15

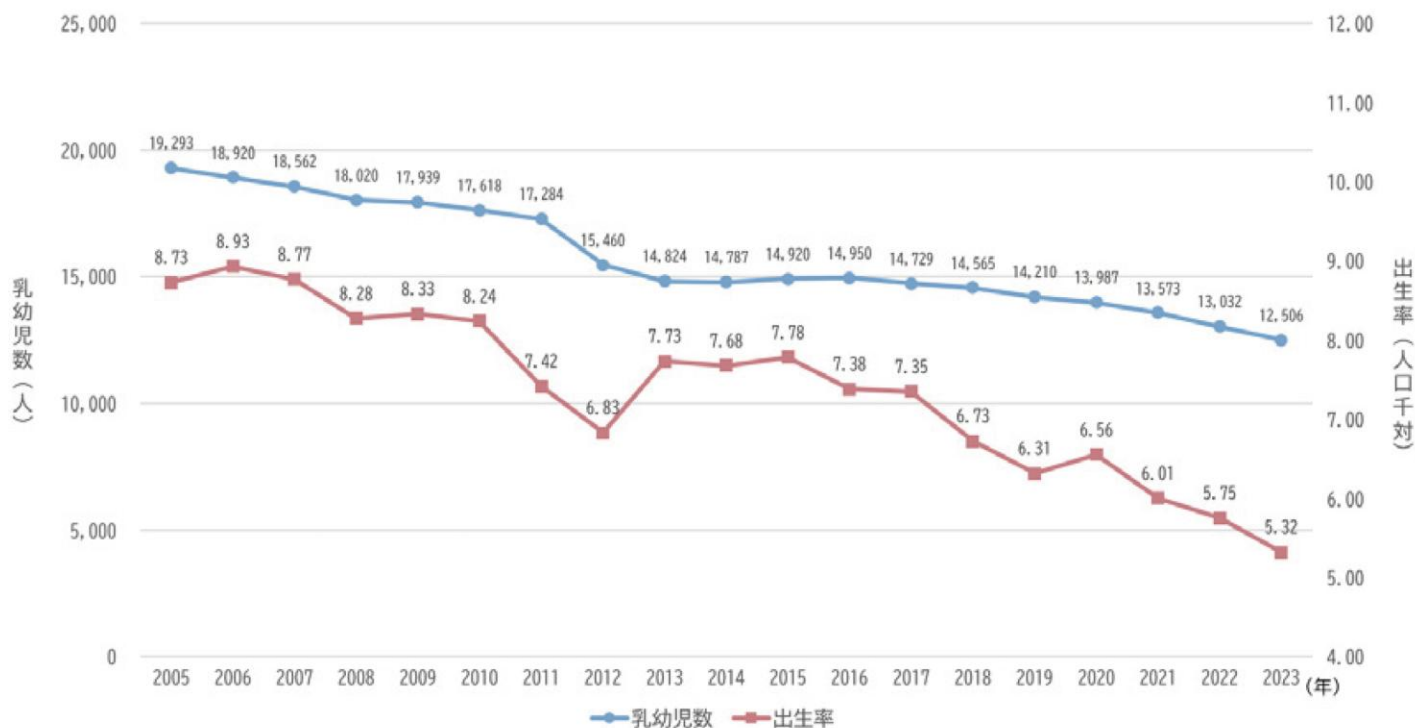
## 若年流出

15～19歳では2019年以降転入が転出を上回っていますが、20～24歳の大幅な減少が目立っています。



## 乳幼児数・出生率の推移

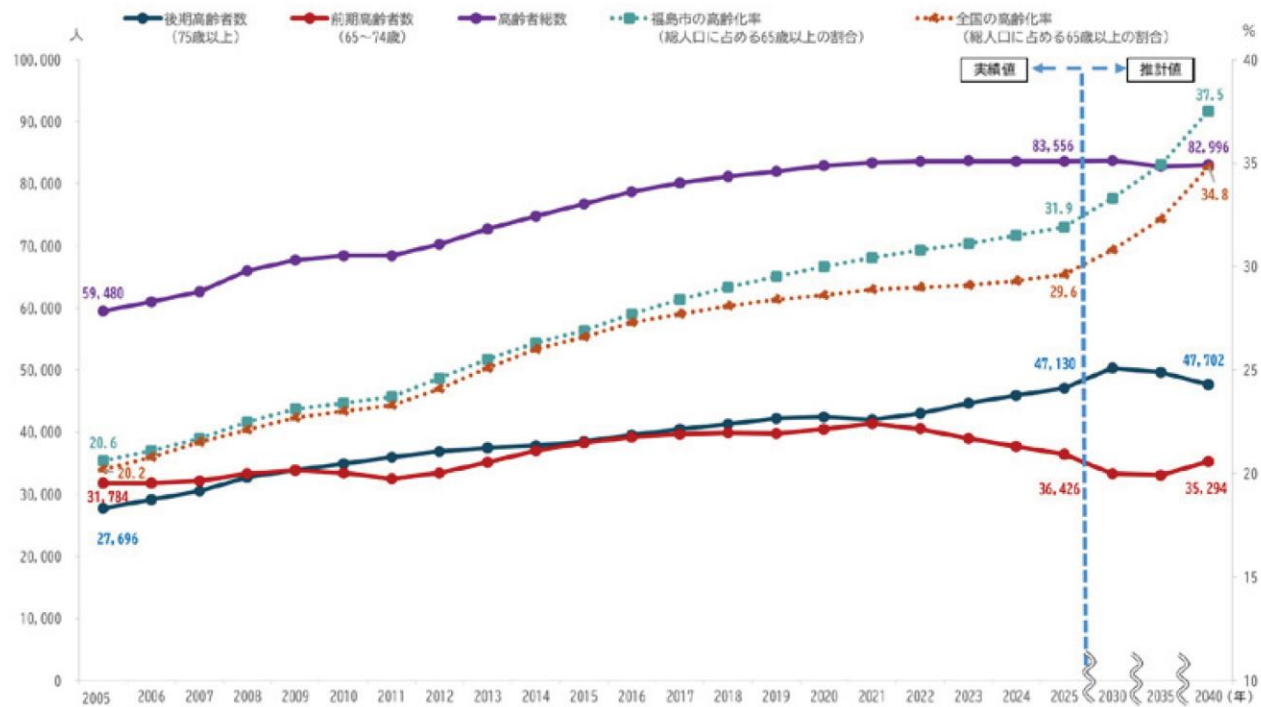
人口の減少に伴い、乳幼児数、出生率も減少しています。



## # 6

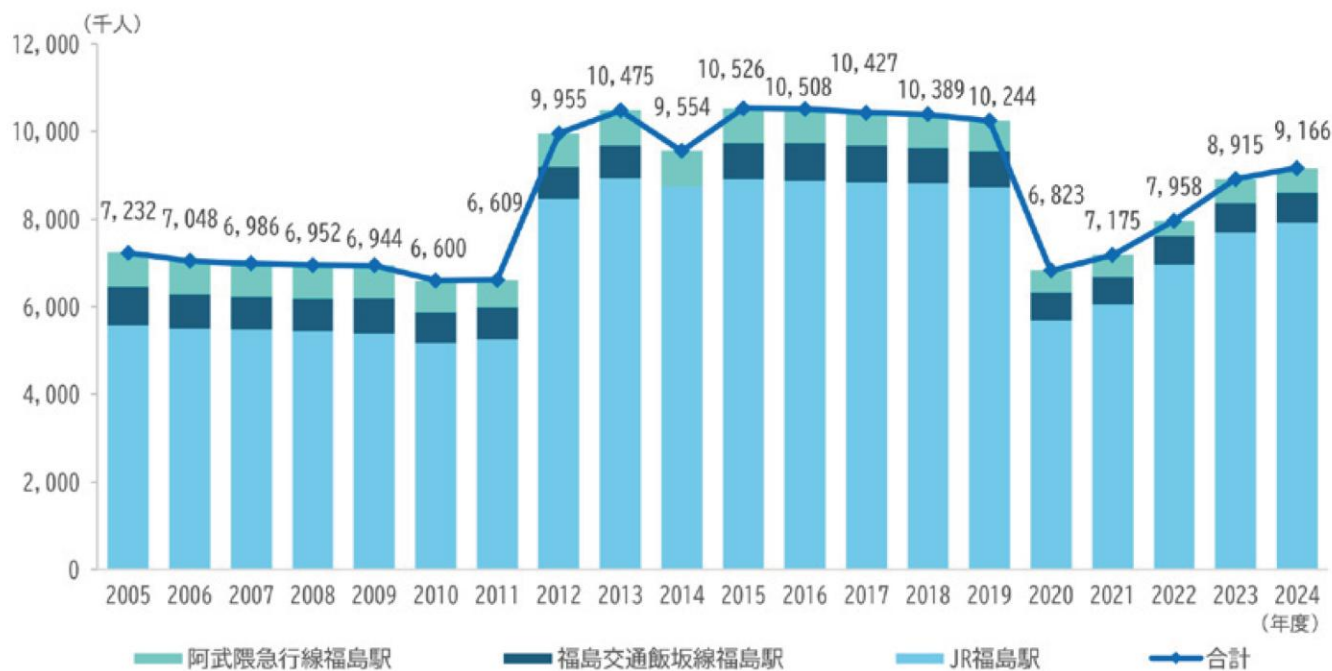
## 高齢者（65歳以上）数と高齢化の状況

高齢者総数、高齢化率ともに増加しており、今後15年の推計では高齢者総数は減少に転じるが高齢化率は増加し続けると見込まれます。



## 福島駅利用者数

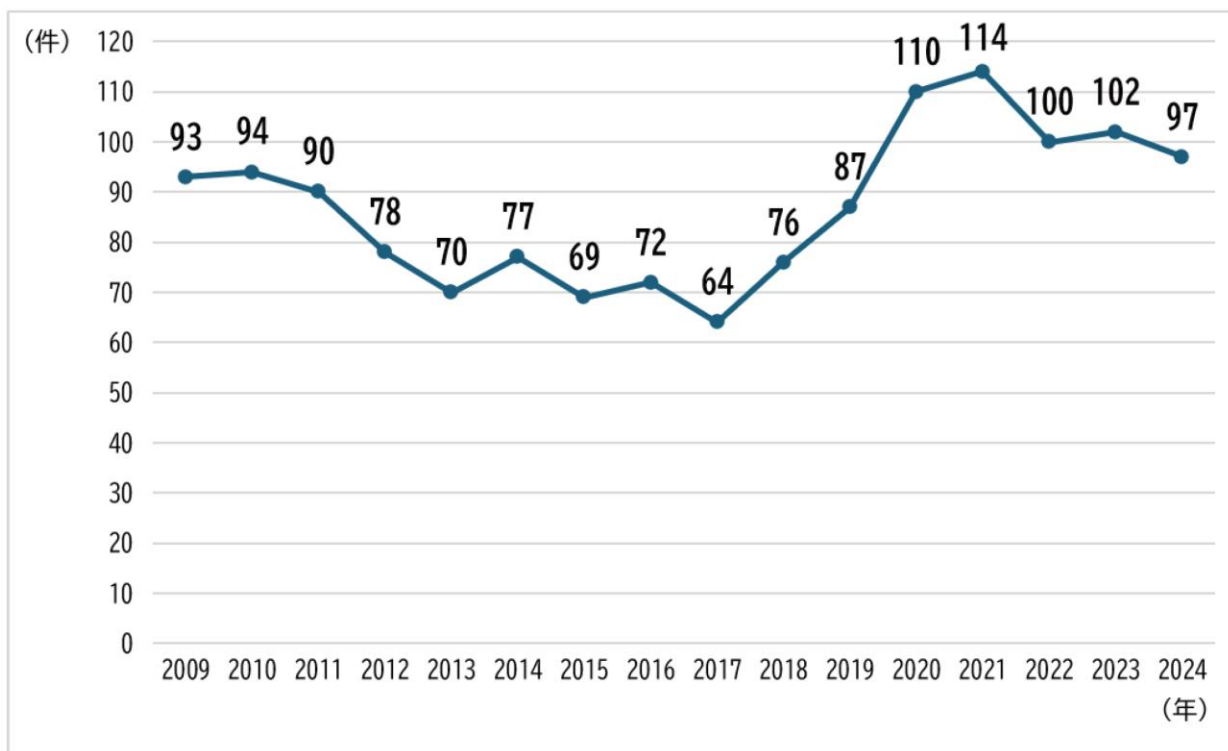
2016年度から緩やかな減少傾向を示しており、2020年度はコロナ禍により利用者数が大幅に減少し、その後徐々に回復傾向にあります。以前の状況までは回復できていません。



※ JRの数値は、1日平均の乗車人数から算出（2012年から新幹線の乗車人数を含む）  
阿武隈急行線、福島交通飯坂線の数値は年間乗車人数（2014年福島交通飯坂線の利用者データなし）

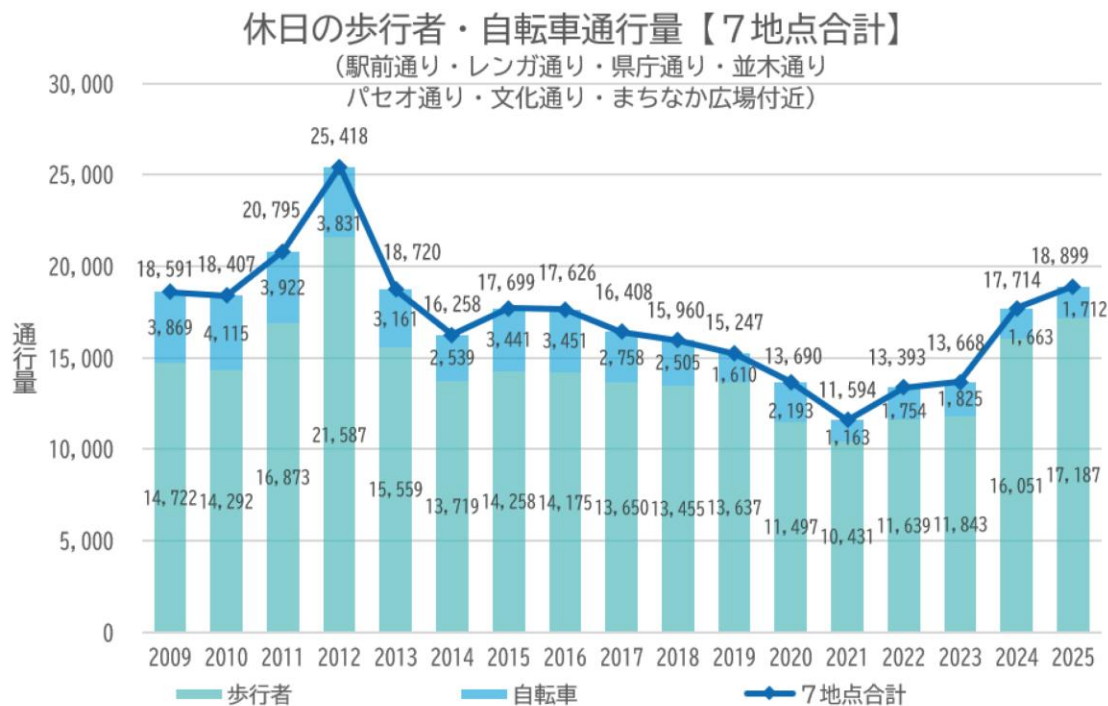
## 中心市街地空き店舗数

コロナ禍の影響により、2021年には空き店舗数が最大となりましたが、その後は人出が回復し、新規出店等により緩やかな減少傾向にあります。



## 休日の歩行者・自転車通行量

2021年までは減少傾向となっていますが、2022年以降人流が徐々に回復して増加傾向に転じています。



## 気象概況（降水量・気温）

気温は緩やかに上昇傾向にあり、降水量は年ごとの変動が大きくなっています。

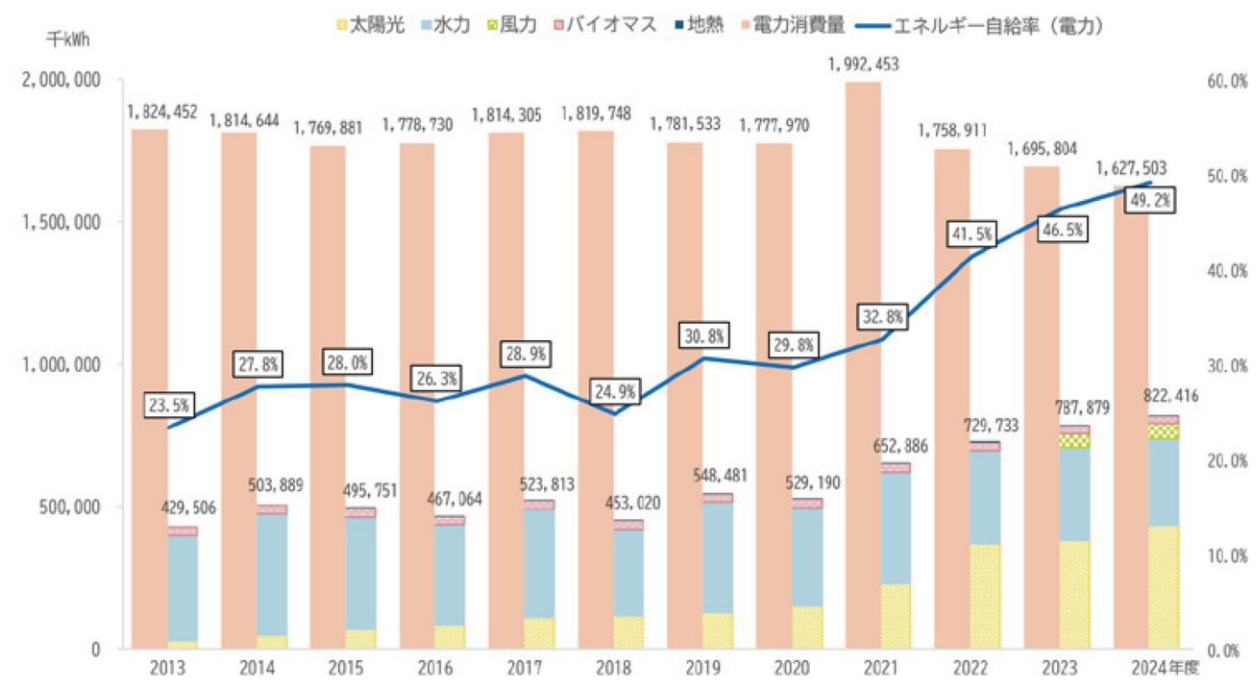
●気象概況（降水量・気温）



# # 154

## 市内電力消費量と再生可能エネルギー発電量の推移の比較

電力消費量に対する再生可能エネルギー発電量の割合は約半分を占め、基準年度(2013年度)と比較すると約2倍に増加しました。これらは大規模太陽光発電施設による発電量の増加が大きく関係しています。



## バス利用者数

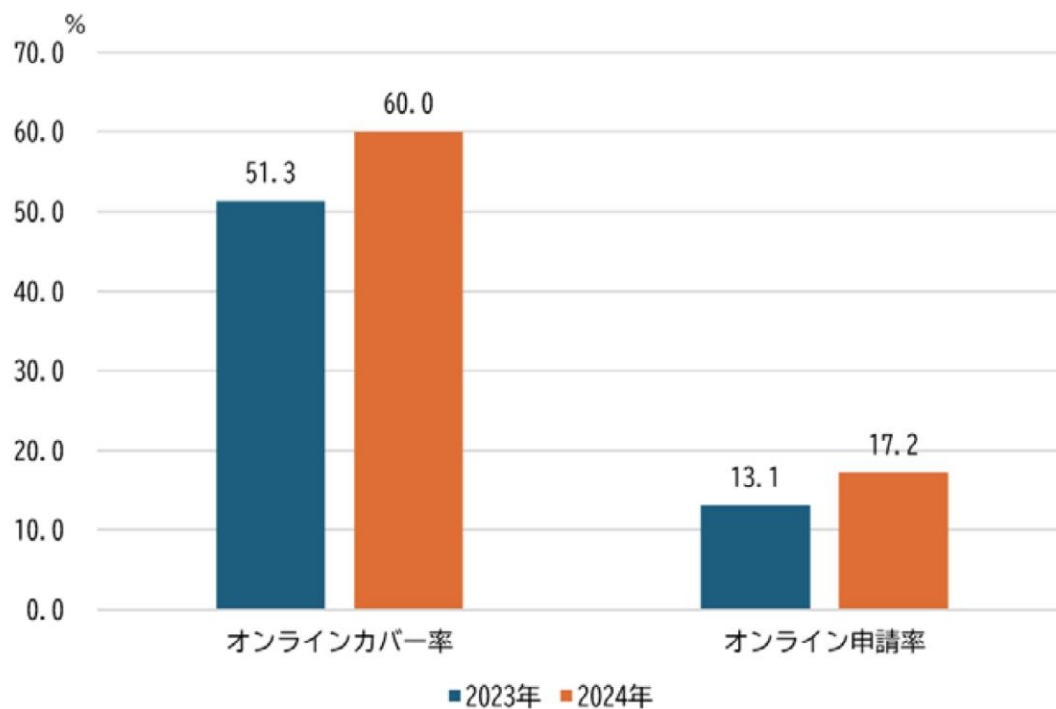
2020年度はコロナ禍により乗車人数が減少し、それ以降は徐々に回復傾向にあります。定期外利用者を中心にコロナ禍前の利用状況までは回復できていません。



## # 189

## オンライン化進捗状況

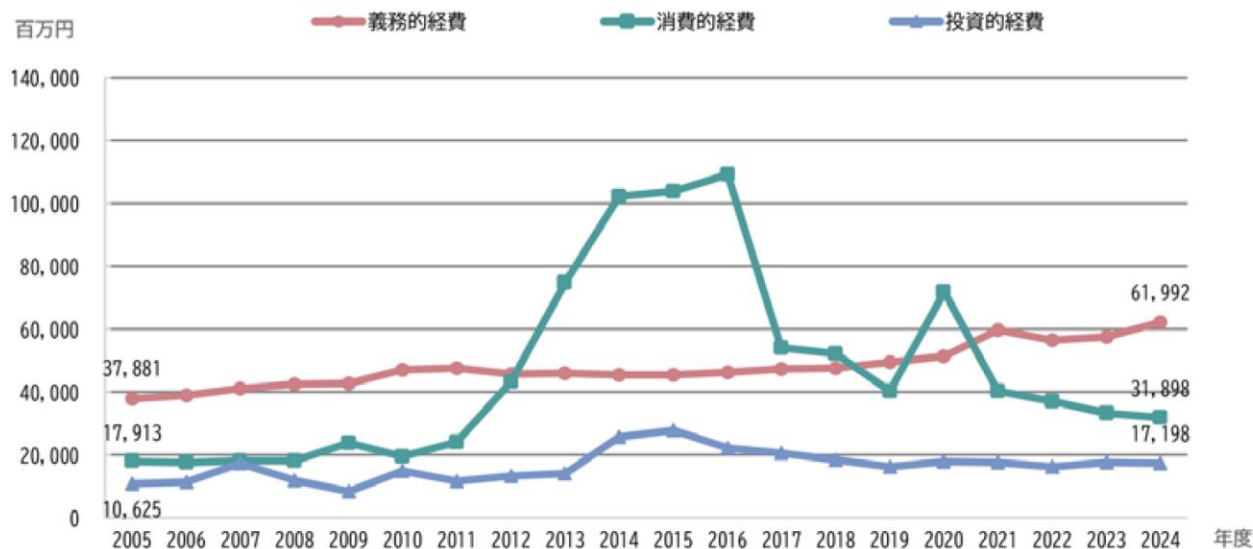
オンラインカバー率、オンライン申請率のいずれも前年比で上昇しており、行政手続きのオンライン化が進んでいます。



## # 175

## 義務的経費・消費的経費・投資的経費の決算額

東日本大震災の影響により消費的経費が一時増加しましたが、近年は義務的経費が消費及び投資的経費を上回っています。



※義務的経費：人件費、扶助費、公債費からなる義務的な経費

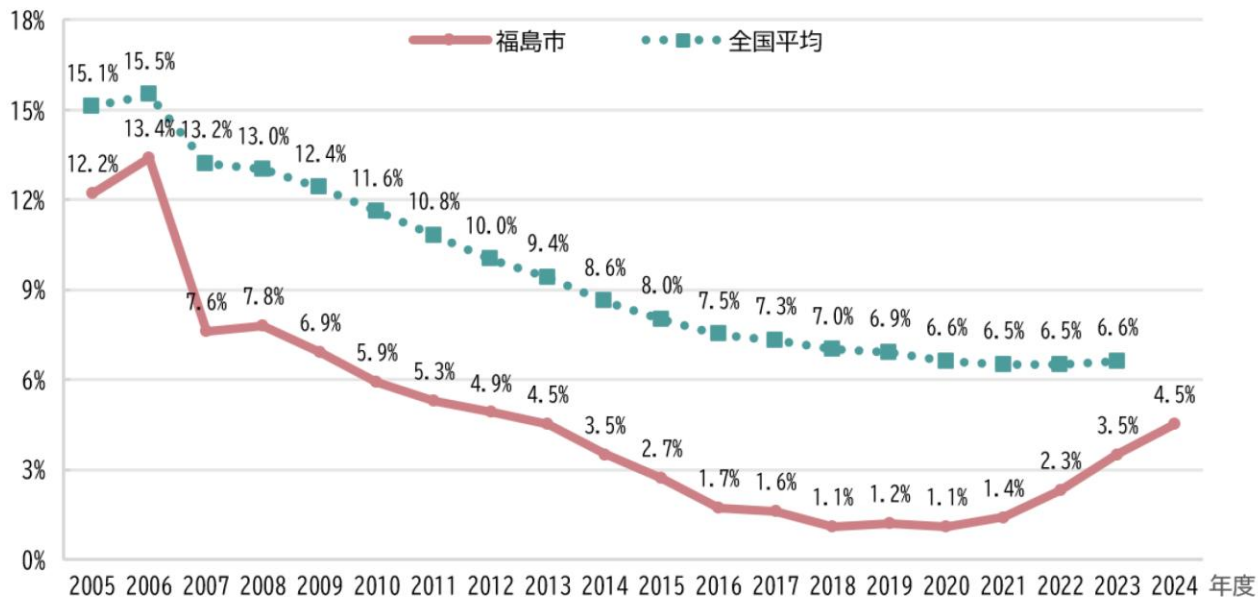
※投資的経費：道路、橋りょう、河川、公園、学校、公営住宅の建設等、社会資本の整備に要する経費

※消費的経費：需用費や役務費、委託料等、消費的性質を持つ経費

## # 167

## 実質公債費比率

実質公債費比率は、全国平均を下回り、減少傾向でしたが、大型公共施設の更新等があり、2021年度より増加傾向となっています。



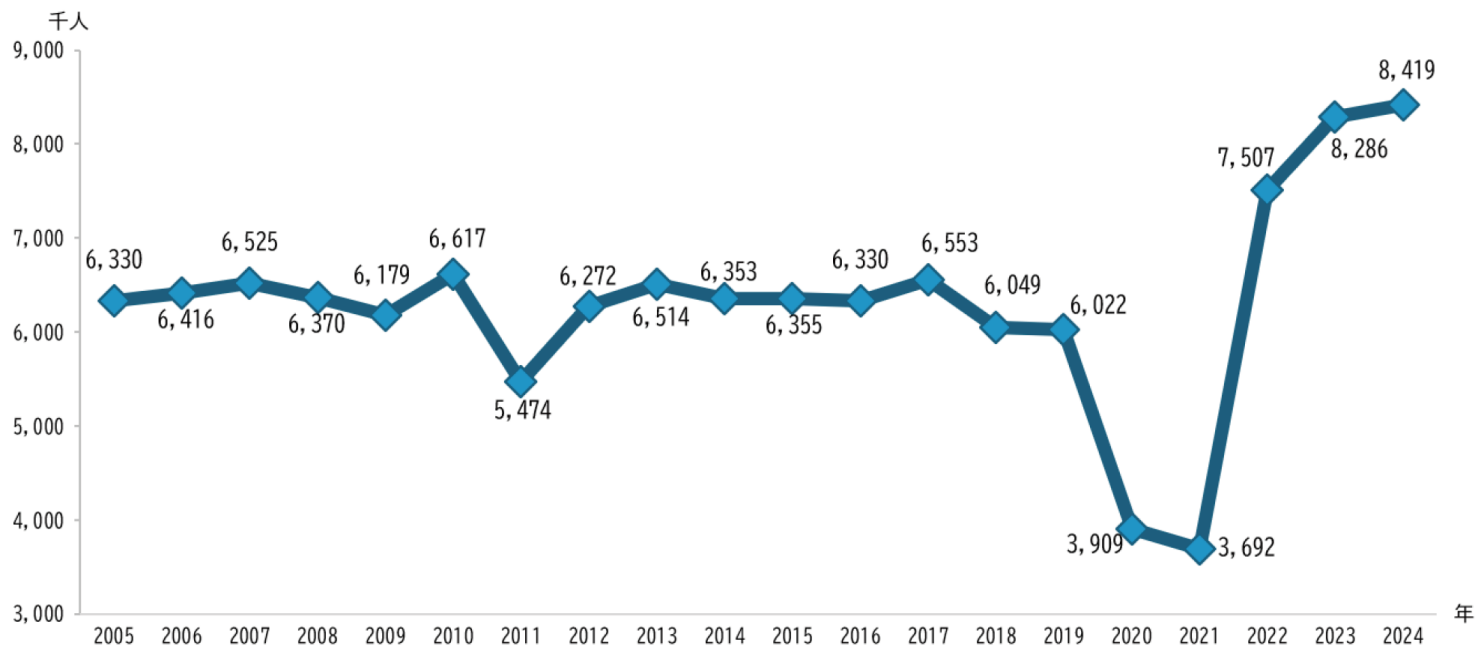
※実質公債費比率

公債費（市の借金の返済額）が経常的な収入に対してどれくらいの割合か示すもの。比率が低いほど財政に余裕がある状態であるとされている。

18%を超えると借金をする際に国の許可が必要となり、25%を超えると財政改善の計画策定が必要となる。

## 観光客入込数（総数）

コロナ禍からの回復や道の駅ふくしまのオープンなどにより、2022年以降は、3年連続で過去最高を更新しています。



## 外国人宿泊者動向

コロナ禍で大きく落ち込みましたが、2023年以降大きく回復してコロナ禍前を上回る状況にあります。

